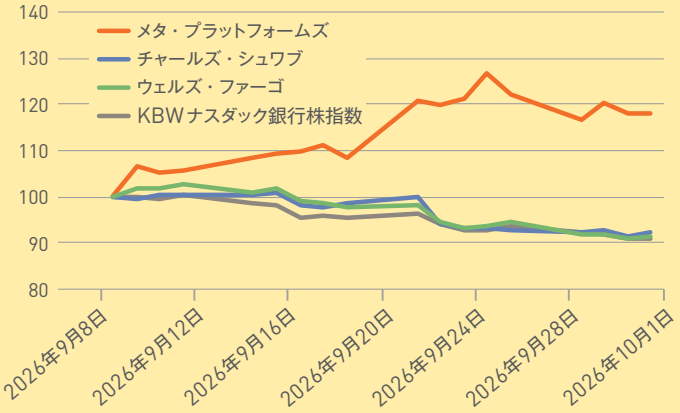
MONEY CLIP

AIを作る時代から、使う時代へ

AIに対する市場の関心は、「作る」企業から「使う」企業へと広がっている。その象徴の一つがメタの新たなAI「Muse」への反応だ。同社の消費者向けAIエージェント「Muse」は、買い物や旅行予約、メール送信、決済といった日常業務を利用者に代わって実行することをめざす。こうした動きを受け、投資家の関心は半導体やデータセンターだけでなく、AIによって収益構造が変化する業界へと広がりつつある。その一例が銀行業界だ。AIエージェントが預金金利を常時監視し、より有利な口座へ自動で資金を移動させることで、銀行の預金が流出する可能性が指摘されている。その影響は住宅ローンの借り換えや各種支払い管理などにも及ぶ可能性がありそうだ。金融機関はこれまで顧客の「惰性」から利益を得てきた部分もあるが、AIがその「惰性」を解消してしまうというわけだ。

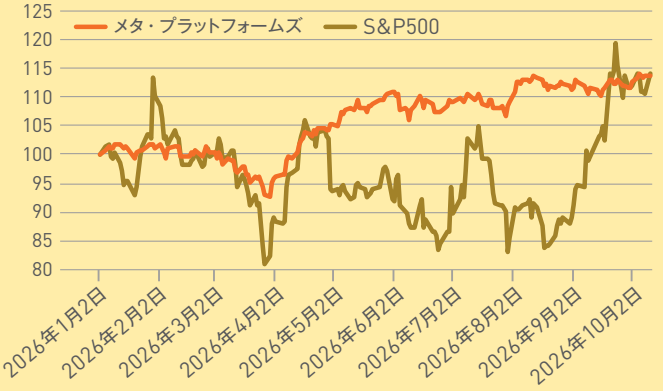
影響は銀行だけに限らない。メタは小売企業や旅行予約サービス、決済事業者との連携を進めており、将来的には消費者が商品を探し、比較し、購入するプロセスそのものをAIが担う可能性もある。AIは単なる情報検索ツールではなく、利用者に代わって行動する主体へ変わり始めている。その影響は今後もさらに広がるだろう。一方でどの企業が恩恵を受け、どの企業が変化への対応を迫られるのかを見極めることは容易ではない。AIを作る時代から、AIを使う時代へ。投資環境の変化を捉える上で、当社レポートもぜひ参考にしていただきたい。 M

■ 図表1 「Muse」発表後の株価、指数の動き
（日次、10月1日まで、開始時点＝100）



（出所）Bloombergのデータをもとに当社作成

■ 図表2 「Muse」発表までAIブームに乗り遅れていた？
メタ・プラットフォームズの株価とS&P500の推移
（日次、2026年10月12日まで、開始時点=100）



（出所）Bloombergのデータをもとに当社作成

三菱UFJモルガン・スタンレー証券の
投資情報をご活用ください！

当社では、投資家の皆さまにお役立ていただきたい
さまざまな情報を提供しています。
国内株式や外国株式、為替、金利、マクロ経済等に関する
豊富なレポートをはじめ、写真や図版をふんだんに盛り込み、
情報をわかりやすくご紹介するパンフレットもございます。
お取引店までお気軽にお問い合わせください。

